

はしがき

本報告書は、平成 25 年 10 月に実施された国際会議「第三回日韓ダイアローグ—メディアの『視覚』が映す日韓の相互イメージ—」（於：ヒルトン東京ベイ）の議事録および要旨・各種資料を集成したものです。

2011 年から 2012 年にかけて急速に冷え込んだ日韓関係は、両国における新政権の成立によって「立て直し」への期待が一時高まりましたが、2013 年もなお改善の端緒をなかなか見いだせぬまま今日に至っています。個々のイシューについての両国の立場の相違が全体としての二国間関係に波及するという「従来型」の構図に加え、それまでの両国関係を規定してきた秩序に対して双方からそれぞれ異議申し立てがなされるというモメンタムが重なっており、しかもそれが国際情勢の変動の中で増幅されていることが事態を更にこじれたものになっている、というのが現在の状況ではないでしょうか。

では、こうした状況を打開するために我々は何をなすべきなのでしょう。政府・民間ともに相互交流の営為がすでに相当程度蓄積された現状にあっては、政府間の対立が民間交流を阻害している、あるいは一般レベルでの相互イメージの悪化が政府間の協力を困難にしている、といった二項対立的な説明はもはや当てはまらず、日韓関係に関わる全ての関係者が、これまでのアプローチについて再検討してみることが、今や求められているように思われます。この点を踏まえて、わたしたち日韓双方の関係者がメディア、有識者を中心に、困難な課題（テーマ）について敢えて正面から取り組むこと、また、激しくも率直な討論を可能にするための環境を整えること、そしてその上で広く問題提起を行うこと、という作業が依然として重要になっています。

今回浦安で開催された「第三回日韓ダイアローグ」は、このような「共通理解」から出発して、企画・立案を経て実施されたものであり、本報告書にはその結果が収録されています。本書をお読みいただければ、日韓関係の形成に大きな影響力をもつ両国のジャーナリストを軸に、有識者や政府関係者を交えた構成のもと、記録においては発言者名を伏して自由な発言を担保する「チャタムハウス・ルール」に則って実にさまざまな課題が議論されたことが判ると思いますが、このような議論を通じて、両国間と各国内の諸アクター間の認識のギャップを少しでも埋め、相互理解を深めていくことが期待されています。

本報告書が明年の日韓国交正常化 50 周年を控え、今後のより良き日韓関係を考えていく上で、の意義ある一助となることを願ってやみません。

最後に、ご多忙のなか今次会議のためにご参集くださった参加者のみなさま、困難な状況にもかかわらず会議の円滑な運営と報告書の作成のためにご尽力いただいた関係各位、そしてこれらすべての過程において多大なご支援を賜りました株式会社ロッテに厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 野上義二

目次

はしがき.....	i
目次.....	iii
プログラム.....	1
参加者リスト.....	3
発表およびディスカッション 要旨.....	7
▶ 開会辞.....	8
▶ セッション 1:「東アジア戦略環境の展望」.....	8
▶ セッション 2:「日韓関係の未来像の模索」.....	13
▶ 基調講演.....	22
▶ セッション 3:「日韓交流の今後—社会・文化交流、若者交流」.....	23
▶ セッション 4:総括討論.....	31
▶ 閉会辞.....	36
▶ セッション 5:「次世代を担う学生たちとの対話」(特別セッション).....	37
発表資料.....	45
議事録.....	75
▶ 開会辞.....	76
▶ セッション 1:「東アジア戦略環境の展望」.....	77
▶ セッション 2:「日韓関係の未来像の模索」.....	96
▶ 基調講演.....	125
▶ セッション 3:「日韓交流の今後—社会・文化交流、若者交流」.....	126
▶ セッション 4:「総括討論」.....	152
▶ 閉会辞.....	167
▶ セッション 5:「次世代を担う学生たちとの対話」(特別セッション).....	168